



当期(2010年3月期)の業績見通し

2009年4月1日～2010年3月31日

当期の見通し

前年度下半期から継続する需要低迷とお客様の低価格志向に伴う単価下落は想定以上に激しく、新型インフルエンザの影響もあり、上半期の収入は当初見込みよりも大きく減少しました。回復には当初予想以上に時間を要し、厳しい収入環境が下半期も継続するとの前提を置かざるを得ない状況となっています。

このような状況の下、期初からの730億円規模の「緊急対策プラン」に加え、7月からは300億円規模の「緊急収支改善策」を掲げ、通期での黒字確保を目指してきましたが、これらを完遂した上でも上半期実績および下半期の見通しを踏まえると大幅な減収による収益の悪化は避けられず、通期連結業績予想を右記の通り修正しました。

連結業績見通し

単位:億円

	当期(通期)		増減額
	4月30日 発表の見通し	10月30日 発表の修正見通し	
営業収入	13,500	12,600	△ 900
営業利益	350	△ 200	△ 550
経常利益	50	△ 450	△ 500
当期純利益	30	△ 280	△ 310
1株当たりの配当金(円)	未定	0	—

連結業績予想の前提

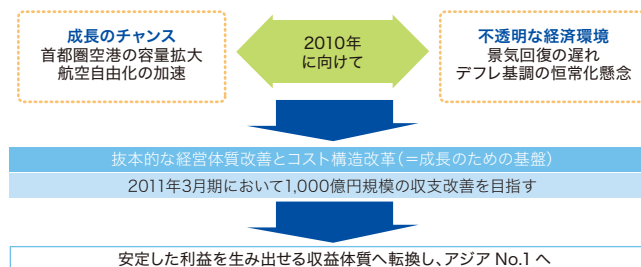
単位:%

		当期(通期)	
		国内線	国際線
座席キ口	前期比	96.3	95.2
旅客キ口	前期比	95.7	101.4

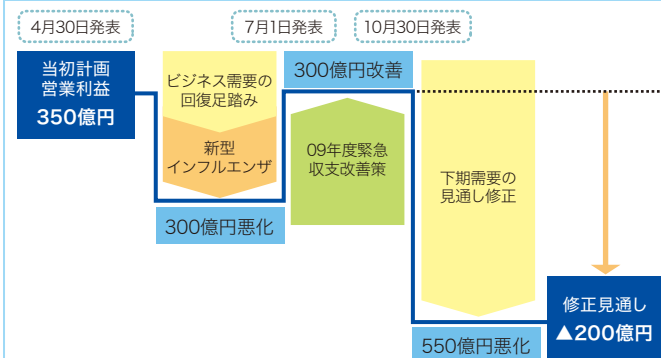
※ 上記予想は本報告書作成時点(10月30日)において入手可能な情報および将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本報告書作成時点における仮定を前提としています。実際の業績は、今後さまざまな要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

来期(2011年3月期)の展望

2010年には羽田、成田両首都圏空港の拡張という当社にとって見逃すことのできない成長のチャンスが到来します。しかし、景気には依然先行き不透明感がありデフレ基調の定着も懸念されます。当社は、厳しい経営環境を踏まえつつ新たな成長を果たすべく、抜本的な経営体質改善とコスト構造改革を進めていきます。



下半期の需要見通しに基づき、利益計画を下方修正



当期の配当について

当初の予想を超える収入の落ち込みにより、各種コスト削減策を講じたものの当期利益の確保が難しくなったことから、無配とさせていただきます。

株主の皆様には深くお詫び申し上げますとともに、業績回復ならびに復配に向け経営努力を重ねてまいりますので、何とぞご理解を賜りますようお願い申し上げます。